◆部門別動向

米

■［令和３年産（水稲）］

作付面積	生産量
30,000ha （全国第 18 位）	152,400t （全国第 18 位）

（農林水産省「作物統計調査」）

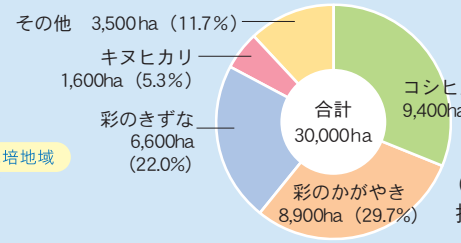
本県の稲作は、４月に田植えをして８月に出荷する県東部地域を中心とする早期栽培から、７月初めまで田植えをして 10 月に出荷する県北部地域の小麦あと栽培など多岐にわたり、それぞれの地域の条件を生かした米づくりが展開されています。

中でも、本県で育成した「彩のかがやき」は、複数の病害虫に抵抗性がある特性を生かした減農薬栽培を基本に、安全・安心でおいしいお米として、多くの県民から支持されています。

また同じく本県で育成した「彩のきずな」は、減農薬による安全・安心な栽培はもちろん、もっちりとした食感が特徴のおいしいお米として、作付面積を拡大しています。

■地域別
水稲栽培方法

■水稲うるち米品種別作付面積割合（令和３年産）



（県生産振興課推定値）

※構成比の合計が 100 にならないのは、四捨五入による。

■水稲生産の推移

（注）陸稲を含まない（農林水産省「作物統計調査」）

麦・大豆

■令和３年産

	作付面積	生産量
麦類	6,050ha （全国第 10 位）	24,000t （全国第９位）
大豆	619ha （全国第 29 位）	582t （全国第 29 位）

（農林水産省「作物統計調査」）

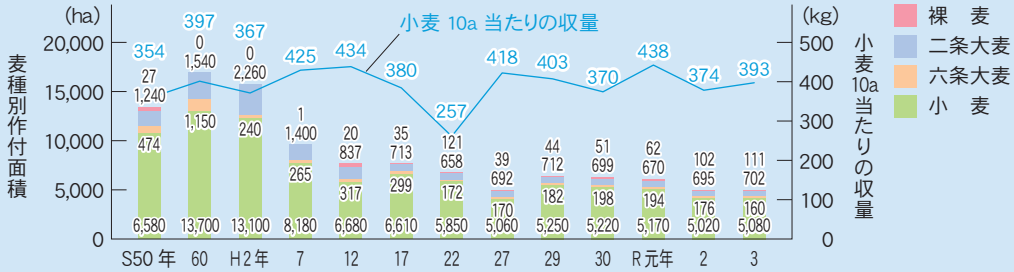
本県は麦の主要な生産県となっており、中でも小麦については、これまで製粉業界等の実需者から比較的高い評価を得てきました。

このため、県では、今後とも実需者の要望に応えられるよう高品質な麦の生産技術の普及・定着やパン用小麦など新たな需要に対応した品種の導入を図るとともに、規模拡大等による生産性の向上を推進しています。

大豆は、麦とともに水田における重要な転作作物として生産されてきました。近年、農商工連携の取組により加工品が開発され、特徴ある在来品種が栽培されています。

また、平成 23 年度から本格実施されている経営所得安定対策の活用により、麦・大豆の一層の生産拡大を進めています。

■麦類生産の推移



（農林水産省「作物統計調査」）

野菜

■令和２年産

収穫量
348,863t

（県生産振興課調べ）

本県の野菜生産は、農業産出額の約半分を占め、主要な作目となっています。

主な産地は、さといもやほうれんそうなどの産地である入間地域、ねぎやブロッコリーなどの産地である大里地域、なすやレタスなどの産地である児玉地域などです。

また、年間を通じて野菜を供給するため、施設栽培も盛んで、大里・児玉・比企・北埼玉地域を中心に、きゅうりやいちご、トマトなどの栽培が行われています。最近は、新型コロナウイルス感染症の影響などの社会的変化に対応する、野菜の消費動向や流通形態に合わせた生産供給が一層求められています。県では、産地の核となる農業法人等を中心とした産地づくりや集出荷体制の合理化による高品質な野菜の生産拡大、ＩＣＴ等先端技術を使った施設園芸などを進めています。

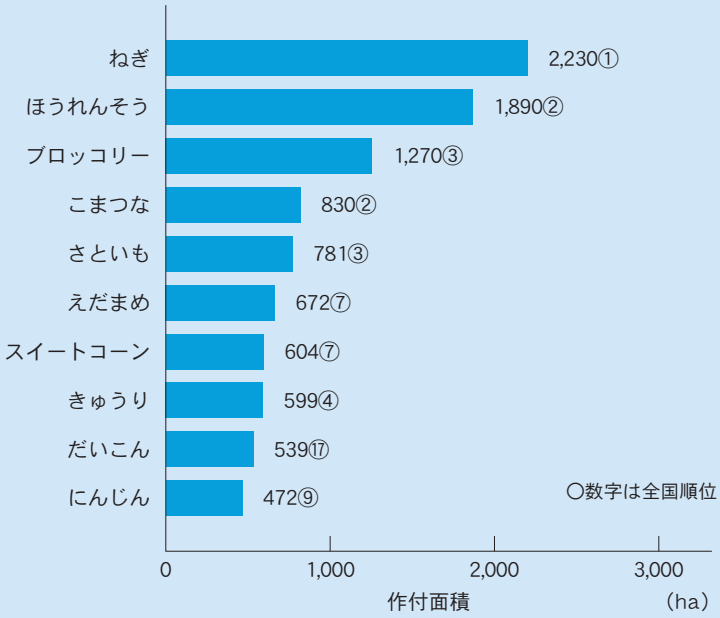
機械化一貫体系の導入による効率的な作業体系の構築

ねぎ移植機活用による生産拡大

ICT 等先端技術を使った施設園芸

低コスト耐候性ハウス

■主な野菜の作付面積（令和２年産）



（農林水産省「野菜生産出荷統計」）

果樹

本県の果樹生産は、なしが果実産出額の約５割を占め、全国第10位（令和２年）となっているほか、ぶどう、くり、うめ、かき、ゆず、すももなど多様な品目が生産されています。

また、近年ではブルーベリー、いちじくなどの新植も行われています。

■令和２年産

品目	作付面積	収穫量
な　し	330ha	6,200t
ぶどう	166ha	1,120t
く　り	651ha	579t
ブルーベリー	68ha	86t
いちじく	11ha	77t

（なし、ぶどう、くり：農林水産省「果樹生産出荷統計」
ブルーベリー、いちじく：農林水産省「特産果樹生産動態調査」）

本県が育成した大きくて甘い梨「彩玉」

作付面積が増えている「シャインマスカット」

茶・特産物

本県の特産品である狭山茶は、入間市、所沢市、狭山市を中心とする県西部地域において栽培されており、農家自ら生産から販売までを行う形態が主流となっています。

また、繭、こんにゃくなどの特産物は、県西北部の中山間丘陵地域において、気象・土地条件を生かした特徴ある産地づくりが行われています。

■令和３年 概数値

	栽培面積	生産量（収繭量）
茶〈令和３年産〉	783ha（全国第８位）	生葉 3,400 t（全国第８位）
繭〈令和３年産〉	―	４t（全国第４位）
こんにゃく	３ha（全国第 23 位） ※令和３年産	165 t（全国第７位） ※平成 30 年産

（茶　：農林水産省統計部調べ
繭　：（一財）大日本蚕糸会調べ
こんにゃく：農林水産省統計部調べ）

伸びる狭山茶の新芽

出荷する繭の選別（選除繭）

畜産

本県の畜産は、野菜、米と並んで本県農業の基幹部門となっています。

近年は、ＩＣＴを活用した生産の省力化や病気の予防による生産コストの低減、付加価値の高い特色あるブランド畜産物の生産・販売も行われています。

また、生産県であると同時に大消費県であるという本県の特性を生かし、ふれあい施設や直売施設を設置するなど工夫を凝らした経営や、消費者との交流に積極的に取り組む経営者もみられます。

■令和３年

	飼養頭羽数
乳用牛	8,000 頭（全国第 24 位）
肉用牛	17,300 頭（全国第 33 位）
豚	80,600 頭（全国第 25 位）
採卵鶏（成鶏めす）	2,156 千羽（全国第 22 位）

（農林水産省「畜産統計」）※令和３年２月１日時点

哺乳ロボット

「武州和牛」精肉

特用林産物

本県で生産される特用林産物は、しいたけ等のきのこ類を主として、木炭、タケノコなど多岐にわたっています。生しいたけの生産量は、昭和 55 年の 2,372 t をピークに、長期的に逓減しています。また、平成 10 年以降は、菌床栽培が原木栽培の生産量を上回るようになってきています。

県では、しいたけなど特用林産物の生産基盤を支えるため、きのこの原木や菌床用培地の生産資材の導入支援を行っています。

■令和２年

	生産量
きのこ類	2,864t
木炭	21t
タケノコ	４t

（林野庁「特用林産基礎資料」）

しいたけの原木栽培

しいたけの菌床栽培

花・植木

■令和元年産

栽培面積
765ha

（農林水産省「花き生産出荷統計」及び「花木等生産状況調査」）

本県の花植木生産は、深谷市を中心とする県北地域のユリ、チューリップなどの球根切り花や「安行の植木」として全国に名を馳せる県南地域の植木・盆栽類、鴻巣市などを中心とした鉢花や花壇用苗物など全国でも有数の産地を形成しています。

近年では、アジサイやポインセチアが児玉地域を中心に生産され、全国トップレベルの技術を確立しています。

県では、花植木の需要拡大を図るため、花育の推進や花植木大商談会等の普及啓発活動を支援しています。また、県が育成した芳香シクラメンの安定生産や切り花の日持ち性向上対策への取組、公園や道路等の緑化を行うボランティアの育成、夏に適した品目の選定や展示・植栽方法を提案する取組も進めています。

県が育成した芳香シクラメン

小学生を対象とした花育教室

消費拡大プロモーション（展示会）

水産

■令和元年産

漁業養殖業生産量
256t

（県水産研究所調べ）

本県の水産は、養殖業と河川漁業に分けられます。養殖業については、キンギョ・ニシキゴイなどの観賞魚が主体で、本県は全国でも有数の生産県となっています。

また、ホンモロコやナマズなどの食用魚も水田を利用して生産されています。特に、ホンモロコについては、販路拡大を図るため、子持ちホンモロコの生産など付加価値の向上に取り組んでいます。

河川漁業については、釣りが県民のレジャーとして定着しており、漁業協同組合が魚類の増殖等を図るとともに、河川や湖沼等の魚場を管理しています。

キンギョ

ホンモロコ

アユ釣り風景